

県内上場企業の14年3月期決算は、円高修正、消費・観光分野の好調さ、建設需要の増加等を背景に、売上高が前年度比8.4%増、経常利益が同29.1%増と大幅増益

千葉県内の上場企業(金融を除く3月決算企業。対象社数32社、製造業15社、非製造業17社)の13年度(14年3月期)決算は、増収増益となった(売上高は前年度比8.4%増、経常利益は同29.1%増)。32社中増収企業が28社、増益企業が23社を占めている。製造・非製造別にみると、製造業では15社中増収企業が13社、増益企業が9社(売上高は同10.9%増、経常利益は同25.4%増)、非製造業では17社中増収企業が15社、増益企業が14社(売上高は7.6%増、経常利益は29.9%増)と、非製造業の増収増益の割合が高い。また、経常利益が過去最高となった企業は32社中11社(製造業では15社中4社、非製造業では17社中7社)、リーマン・ショック後最高となった企業は17社(製造業では6社、非製造業では11社)となった。

好決算の要因として、次の3点が挙げられる。

- ①特に製造業では、円高修正に伴う輸出採算の好転、受注増加、為替差益の発生が重なったこと
 - 対象企業32社のうち、為替の影響が大きいとみられる輸出型企業では、10社中7社が増益となった。
 - 双葉電子工業(株)では、リーマン・ショック以降の生産拠点再編や人員削減といった合理化の成果に加え、円高修正による為替差益が業績に寄与したことから、7期ぶりに最終黒字となった(経常利益は前年度比5.8倍)。
 - 鬼怒川ゴム工業(株)でも、米国・アジア市場における得意先(自動車メーカー)からの受注増加により、経常利益が前年を14.7%上回った。
- ②非製造業では、国内の景気回復、駆け込み需要などを背景に個人消費分野が好調であったこと【消費関連企業】
 - (株)オリエンタルランドでは、TDRの30周年イベントが好調で過去最高益(前年度比37.1%増・純利益ベース)を更新した。
 - (株)東葛ホールディングスでは、新車の発売や消費増税前の駆け込み需要により経常利益が同46.2%増となった。
- ③官民の建設需要が増大したこと【建設関連企業】
 - 新日本建設(株)では、建設案件の受注増加や自社施工マンションの売れ行きが好調であったこと、などから経常利益が同71.5%増加した。

14年度(15年3月期)の業績予想は、製造業では売上高が13年度比4.4%増、経常利益が同4.5%増と増収増益であるのに対し、非製造業では、(株)オリエンタルランドが30周年記念イベント終了に伴い減収減益を予想していることもあり、売上高が同0.9%増、経常利益が同▲12.6%減となっている(もっとも、(株)オリエンタルランドを除くベースでは、売上高が同3.9%増、経常利益が同1.7%増と増収増益)。ただし非製造業でも、社数では17社中12社が増益を見込んでおり、引き続き好調を持続すると予想している先が多い。14年4月の消費税率引き上げの反動減があるとみられる卸売業・小売業でも、7社中6社が増益を予想しており、全産業ベースでは、14年度も業績が堅調に推移すると見込んでい

る先が多い。
(高城)

県内上場企業の14年3月期実績及び15年3月期予想

(単位:億円、%)

	14年3月期(実績)						15年3月期(予想)					
	売上高	前年度比	増収企業数	経常利益	前年度比	増益企業数	売上高	前年度比	増収企業数	経常利益	前年度比	増益企業数
上場企業(32社)	32,006	8.4	28社/32社	2,616	29.1	23社/32社	32,548	1.7	24社/32社	2,370	▲9.4	22社/32社
製造業(15社)	7,622	10.9	13社/15社	483	25.4	9社/15社	7,956	4.4	11社/15社	505	4.5	10社/15社
非製造業(17社)	24,384	7.6	15社/17社	2,133	29.9	14社/17社	24,593	0.9	13社/17社	1,865	▲12.6	12社/17社

(注1)集計対象は、全国の証券取引所に上場している3月決算企業(金融を除く)のうち千葉県内に実質的な本社を置いており、かつ前年度決算と比較可能な企業。

(注2)増益企業数には、黒字転換した企業数を含む。

出所:各社の決算短信から、ちばぎん総合研究所にて作成